

平成29年度女性の就業ニーズ調査 結果報告

横浜市では、男女が互いにその人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別にかかわらずその個性と能力を十分に発揮し、あらゆる分野に対等に参画できる社会の実現を目指し、取組を進めています。

このたび、女性の就業に関する希望や悩み、必要とされる支援などを把握し、横浜市の施策や市内企業の取組をさらに進めるため、「女性の就業ニーズ調査」を実施しましたので、結果をご報告します。

1 調査の概要

調査対象	横浜市内在住の満20歳以上49歳以下の女性3,000人について、住民基本台帳から無作為に抽出
調査方法	調査票の郵送による配布および回収
調査期間	平成29年12月13日～平成30年1月12日
回収結果	配布票数：2,998票（送付数3,000票のうち2票は住所不明） 有効回収票数：817票 回収率：27.3%

2 調査結果の特徴

現在、収入を伴う仕事をしている人

- 現在の働き方が「正規の社員・職員でフルタイム勤務」の人の将来希望する働き方は、「正規の社員・職員でフルタイム勤務」が約5割に留まり、次いで「正規の社員・職員で短時間勤務」が約3割となっている。
- 経営層・管理職になることへの意向は、正規社員・職員では2割近くが「なりたいと考えている」と回答している。
- 女性が働き続けていくために必要だと思うことは、「育児・介護と仕事を両立するための勤務制度」「夫・パートナーや家族による家事・育児・介護などの分担」「家事・育児・介護などと仕事の両立についての上司や職場の理解」と回答する割合が多い。

現在、収入を伴う仕事をしていない人

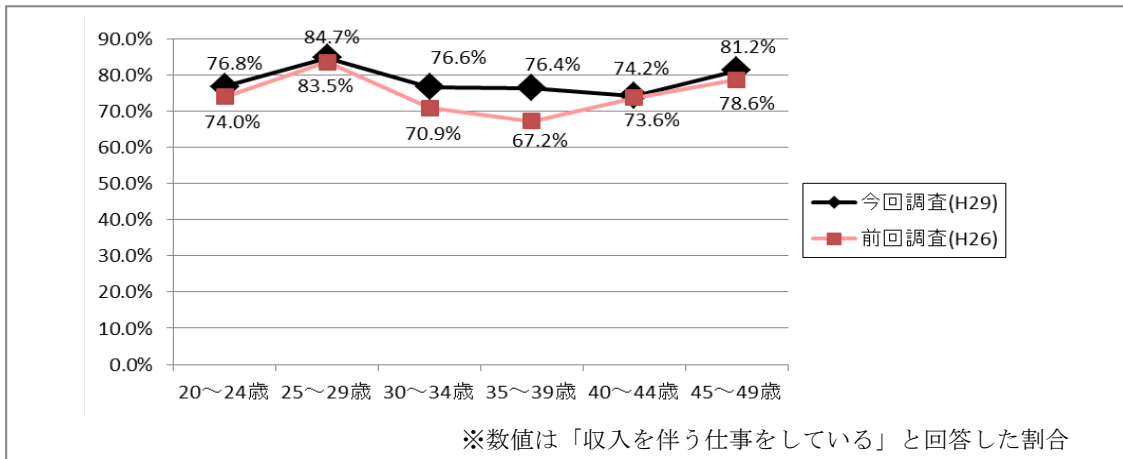
- かつて収入を伴う仕事をしていたが、現在は仕事をしていない人のうち、結婚・出産・育児を機に仕事を辞めた人は約7割となっている。また、現在収入を伴う仕事をしていない人のうち、就業意向のある人は約9割を占め、その約8割が短時間勤務を希望している。
- 再就職をするにあたって、直近で希望する働き方は、短時間勤務が約8割、フルタイム勤務が約1割に対し、将来希望する働き方では、短時間勤務が約5割、フルタイム勤務が約3割となっている。
- 再び働くために企業に求めることは、「仕事と家事・育児・介護との両立について理解がある」「勤務時間や働き方が柔軟である」と回答する割合が多い。

全員共通

- 現在収入を伴う仕事をしている、していないに関わらず、将来希望する働き方として「正規の社員・職員」の回答が最も多い。

3 回答者の就業状況について

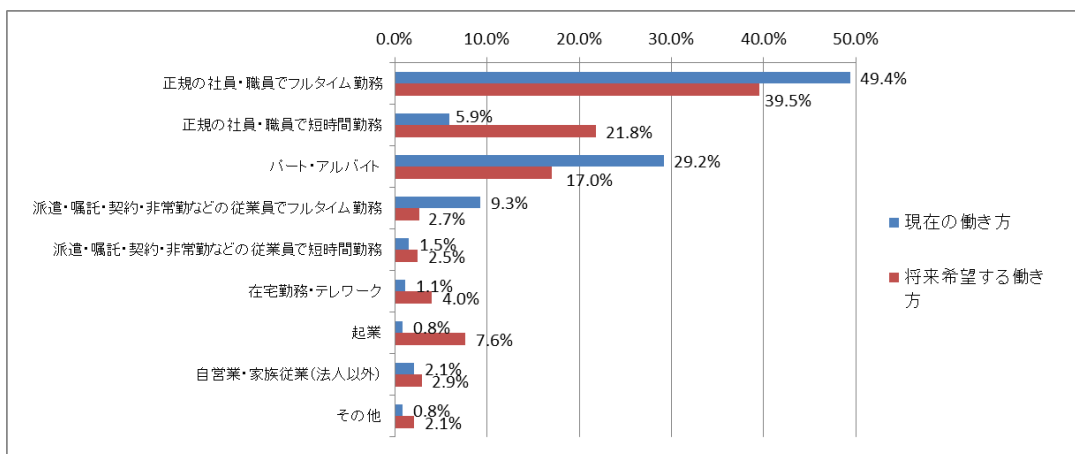
●年齢別就業状況



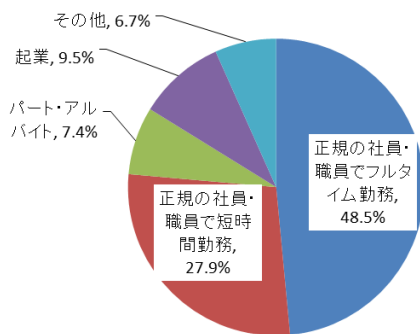
- ・前回調査と比較して、全ての年代において就業割合が高くなっている。
- ・女性の労働力率は、結婚・出産期にあたる年代に一旦低下し、育児が落ち着いた時期に再び上昇するという、いわゆるM字カーブを描いているが、M字の谷の部分の部分が浅くなっている。

4 収入を伴う仕事をしている女性の就業ニーズについて

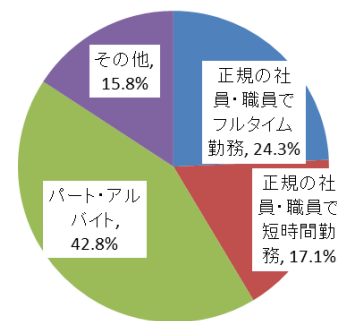
●現在の働き方・将来希望する働き方



●現在の働き方が「正規の社員・職員でフルタイム勤務」の人の将来希望する働き方（内訳）

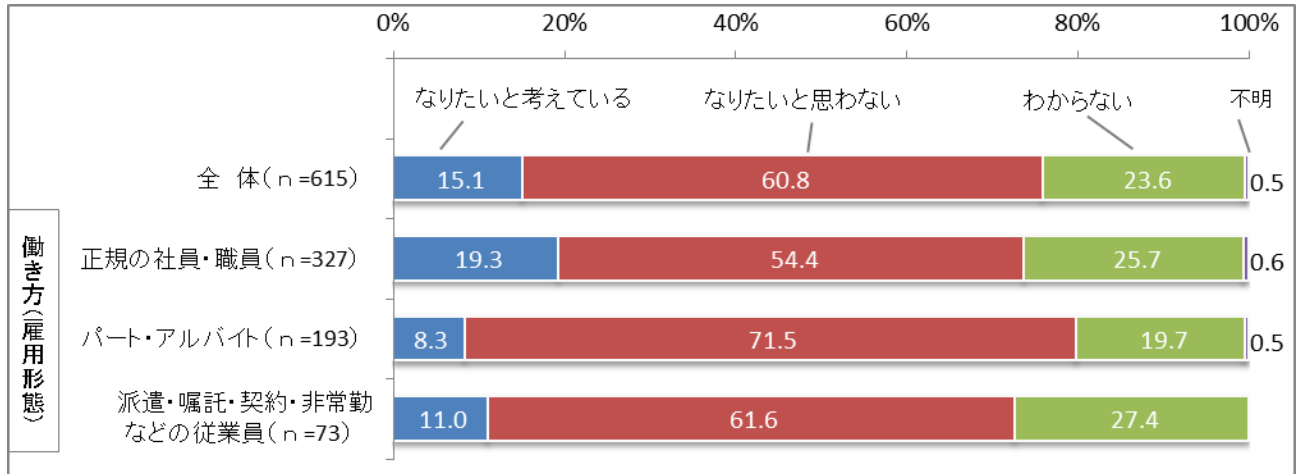


●現在の働き方が「パート・アルバイト」の人の将来希望する働き方（内訳）



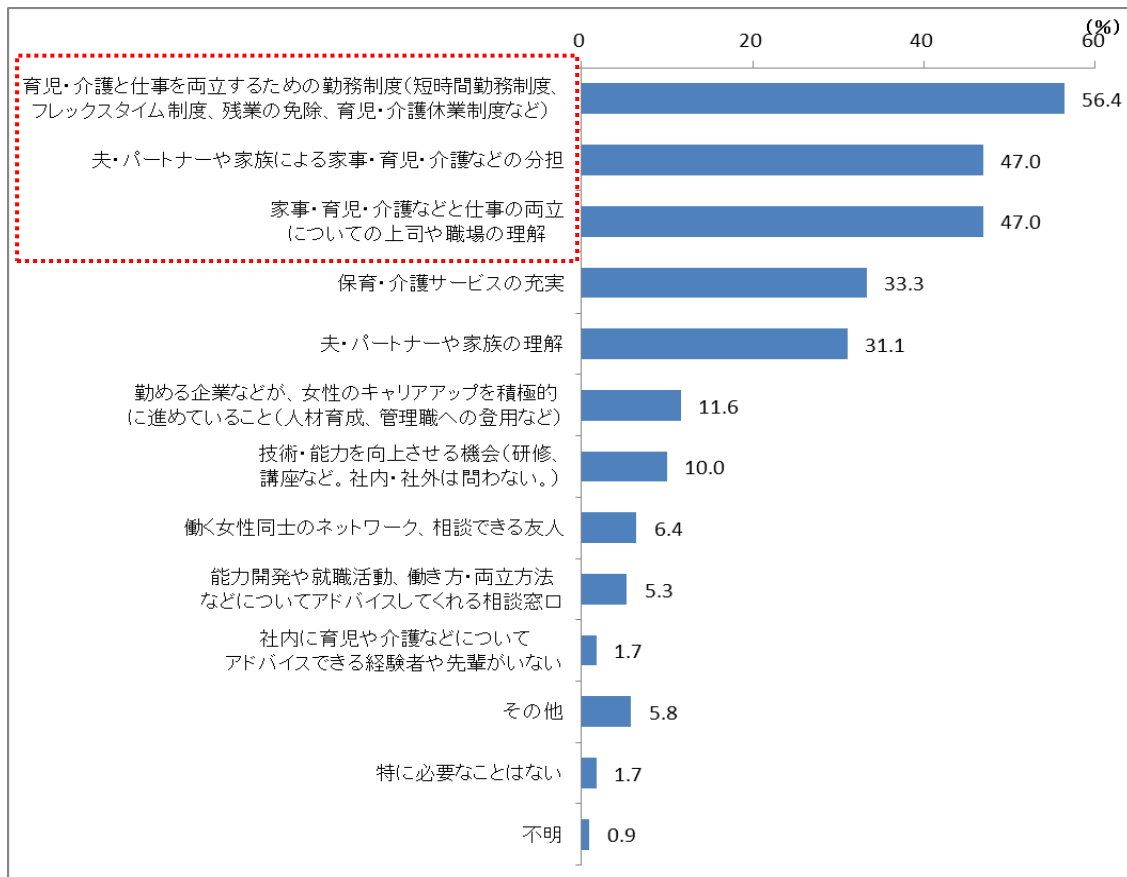
現在の働き方が「正規の社員・職員でフルタイム勤務」の人の将来希望する働き方は、「正規の社員・職員でフルタイム勤務」が48.5%、「正規の社員・職員で短時間勤務」が27.9%となっている。また、現在の働き方が「パート・アルバイト」の人の将来希望する働き方では「正規の社員・職員」が41.4%にのぼる。

● 経営層・管理職になることへの意向



将来、経営層や管理職に「なりたいと思わない」と回答した割合が6割と高い状況ですが、雇用形態別に見ると、「正規の社員・職員」では2割近くの人が「なりたいと考えている」と回答している。

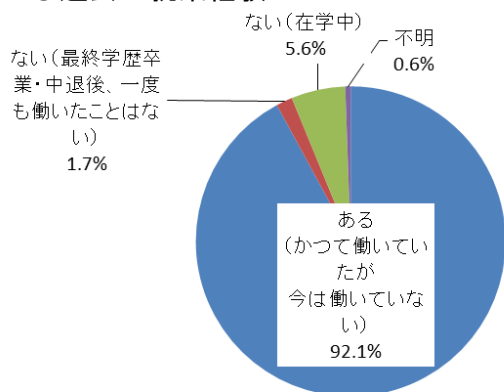
● 女性が働き続けていくために必要だと思うこと



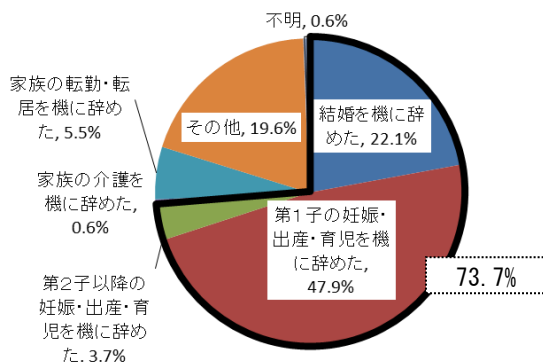
育児・介護と仕事を両立するための勤務制度や上司や職場の理解、夫・パートナーなど家族による家事・育児・介護などの分担が必要と回答した割合が高く、保育・介護サービスなどの福祉要素の充実以上に、職場や家族の在り方が重要となっている。

5 収入を伴う仕事をしていない女性の就業ニーズ

●過去の就業経験

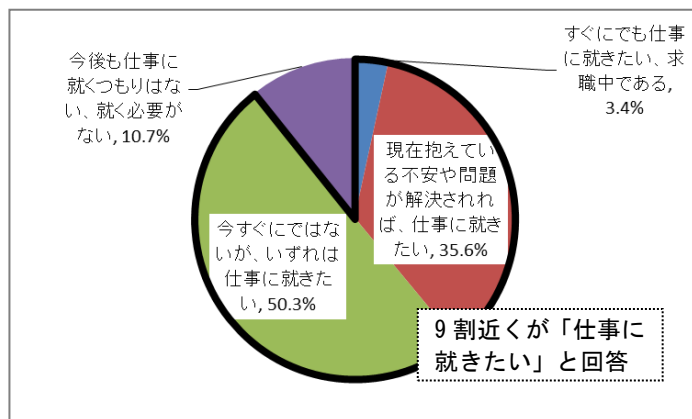


●仕事を辞めた時期



過去に就業経験のある人は92.1%、そのうち結婚・出産・育児を機に仕事を辞めた人は73.7%を占める。

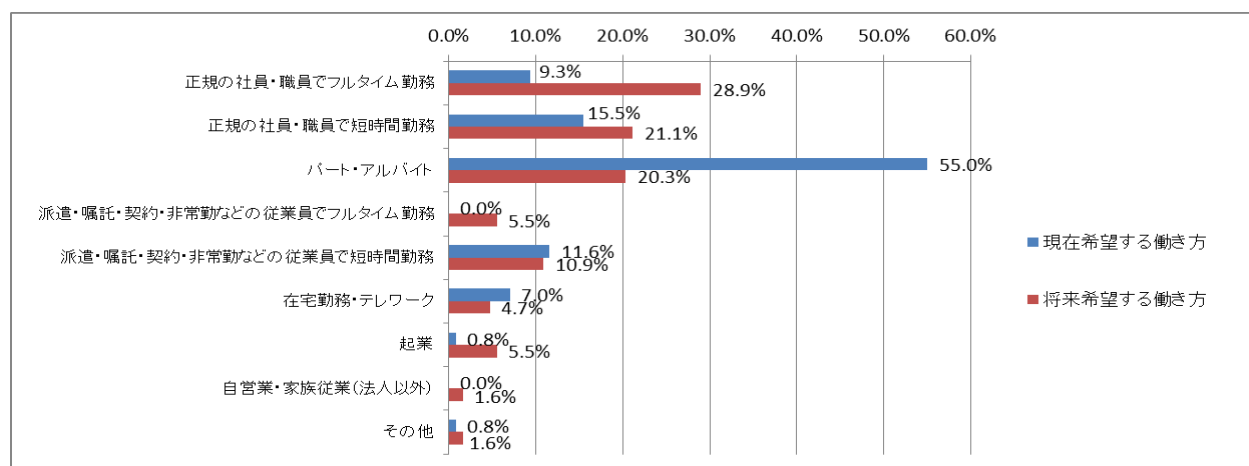
●今後の就業意向



「すぐにも仕事に就きたい」「現在抱えている不安や問題が解決されれば、仕事に就きたい」「今すぐにはないが、いずれは仕事に就きたい」を合わせると89.3%と高い割合になっており、現在収入を伴う仕事をしていない女性の大半が就業を希望している。

9割近くが「仕事に就きたい」と回答

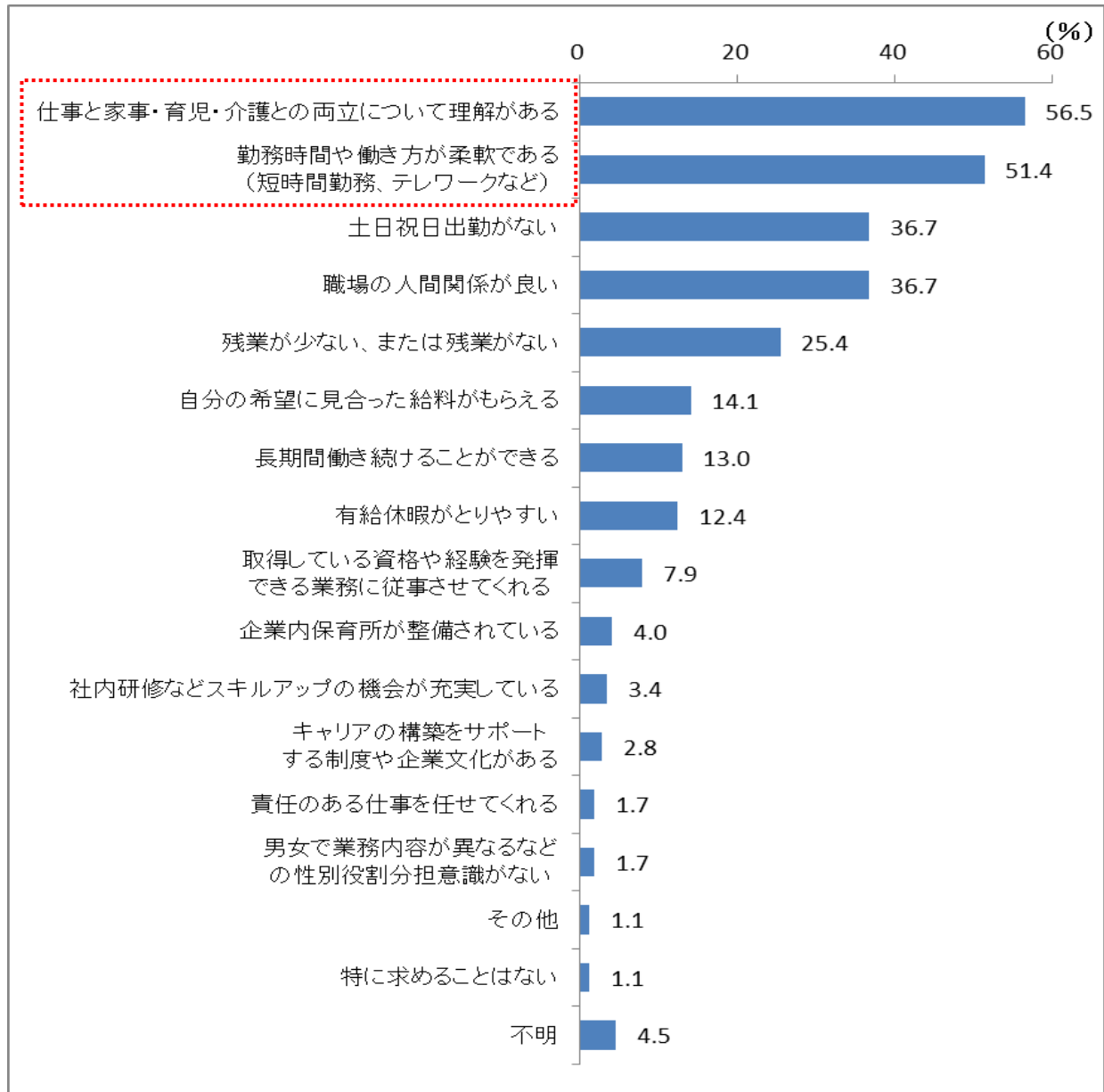
●就業意向のある女性が希望する働き方(現在・将来)



直近で希望する働き方は、短時間勤務が82.1%（正規の社員・職員15.5%＋パート・アルバイト55.0%＋派遣・食卓・契約・非常勤などの従業員11.6%）、フルタイム勤務が9.3%に対し、将来希望する働き方では、短時間勤務が52.3%、フルタイム勤務が34.4%となっている。

また、就労形態別にみると、直近で希望する働き方では、パート・アルバイト(55.0%)、正規の社員・職員(24.8%)、派遣・嘱託等(11.6%)に対し、将来希望する働き方では、正規の社員・職員(50.0%)、パート・アルバイト(20.3%)、派遣・嘱託等(16.4%)となっている。

●再び働くために企業に求めること



働いている女性のニーズと同様に、育児・介護と仕事を両立するための理解や勤務制度が特に重要と考えられる。

★調査結果は、政策局男女共同参画推進課のホームページに掲載します。

URL : <http://www.city.yokohama.lg.jp/seisaku/danjo/chousa/>

お問合せ先

政策局男女共同参画推進課長 山本 千穂 Tel 045- 671- 3691